

選考委員長講評

梅光学院大学 教授 樋口 紀子

「女性いきいき大賞」は今回で6回目になります。今回応募された団体は、37団体でした。1次選考では各分野を念頭におきながら、15団体に絞り、2次選考では分野ごとに優秀賞一つを選び、その中からさらに最優秀賞を決定しました。また、優秀賞に次いで評価の高かった団体を「奨励賞」としました。各分野の優秀賞を選ぶこと、その中から最優秀賞を選ぶことは例年のように甲乙つけがたく、難航しました。今年は、今までになかった新たな活動テーマをされている団体や、今後、他の地域や団体の活動の参考になるような団体が増えてきたことが特徴でした。



そうした中で4つの団体だけに絞るとするのは、大変困難だったのですが、今回の選にもれた団体も、この結果にめげることなく、次に向けて“いきいき”と活動を続け、新たなことにも挑戦しながら、また応募して頂きたいと思います。また、「学生の部」は、「梅光学院大学東北ボランティア実行委員会」に決まりました。大震災という未曾有の災害が起こり、機敏に対応したことを評価いたしました。受賞したどの団体もこれをきっかけに、さらに“いきいき”と活動して下さい幸いです。なお、最優秀賞・優秀賞団体の表彰理由は以下のとおりです。

○やまぐち食育くらぶ（最優秀賞・山口県知事賞）：子育て分野

未就園児を持った親子での料理講習や稲刈り体験バスツアー等、体験型の食育活動をしておられること、幼児向けの食育指導を幼稚園や保育園に積極的に出向いて活動しておられることが評価されました。また、わかりやすい食育情報誌を独自で、しかも企業の賛同を得て無料で2万冊発行しておられることも今回の表彰理由の一つとなっています。この活動は、「コープやまぐち」と連携しながら行うことができるものとして今後、大いに期待できる活動であると思われます。

○山口の街並を着物で歩こう会（優秀賞・朝日新聞社賞）：くらしづくり分野

山口に来て下さった方に着物を着て頂く活動をすることによって、より山口の街を楽しんで頂き、またこれをPRにつなげていくという活動が、着物好きの人たち自身の手による活動で展開され、それが観光や国際交流につながっているという点が評価されました。また、中学校や高校に出向いて着物の伝統文化の継承のPRをしておられることや、HPが充実し周知されてきたことも選ばれた理由です。

○光ピンフレンズ（優秀賞・yab山口朝日放送賞）：地域づくり分野

“卓球”という趣味を通して仲間ができ、その人たちがボランティア活動をして、地域に結びついていくという形態が県内のモデルケース的に普及できるのではと評価されました。また、この団体は女性を中心となって活動していますが、多くの男性も参加され、特に定年後の男性の特技を活かして活動を活性化させている点でも、今後の他の団体の参考になると思われます。

○ビューティー・ケア山口（優秀賞・山口新聞社賞）：福祉分野

デイケアに集まるお年寄りにお化粧をすることによって、お年寄りを笑顔にするということが素晴らしいと評価されました。また、活動にかかる費用も補助金に頼らずみんなで捻出しておられ、単に化粧だけでなく一緒になってレクリエーションを楽しんでおられる様子もほほえましいです。お年寄りの方をこういった方法でいきいきとさせるという活動は、女性ならではの発想で、初めてこのような団体が出てきたということでも評価されました。

最優秀賞（山口県知事賞）

やまぐち食育くらぶ

代表者 西本 葉子（子育て分野／山口市）

活動の動機・目的

山口市の給食が民間委託になった時、お母さんたちの「子どもたちのための給食を守る会」が立ち上がり、その中で出会ったメンバーと食育の大切さを知らせ合う食育の会として発足した。

「食育は子どもの学力と体力と優しい心を育てるもとです。『食』は栄養を取るだけでなく、文化とマナー、環境、経済、医療、福祉を学ぶ入り口であり、豊かな人間性を育む基盤です。」子どもたちの笑顔と明るい未来の為に、食育をキーワードに、子どもと家庭と地域を結ぶ活動をめざす。

活動の内容

①食育くらぶの会員に向けた食育講座開催

未就園児の子どもと保護者を対象に、食育の話と親子での調理実習を開催。

食育の話は手作り紙芝居で子どもに分かりやすくしている。メンバーの食育指導士3名が中心となり、他にも絵本の読み聞かせも行う。

②食育情報誌の発行

山口市・防府市の全幼稚園・保育園、宇部市の保育園に2万部無料配布（年2回）。

食育の普及を目的に編集。テーマを決めて編集していくが、「今、伝えたいことを掘り下げてわかりやすく」をモットーにしている。

掲載例

- ・野菜ソムリエさんの本日のおすすめ～「人参」効能や料理レシピ紹介
- ・「ぶっちゃけ！食育トーク」～食育指導士
～自分の子育ての苦労した思いや今思っていることなど
- ・食育活動レポート（食育講座の報告）
- ・ぶっちゃけ！うちのご飯～簡単☆レシピの紹介など

③食育指導士としての講演活動

保育園等から依頼を受け、子ども対象のお話（紙芝居で野菜を食べる意味と早寝・早起き・朝ご飯の生活習慣の大切さ）と保護者対象のお話（食事は心も育んでいること、食卓を一緒に囲んで手造りの料理を食べる喜びが、子どもたちの豊かな人間性を育むこと）を組み合わせでお話をする。

これからめざしたいこと

子どもたちから「野菜を食べる、お米をいっぱい食べるよ」という感想をもらったり、親からも「子どもは、食事の時に言葉・愛情も一緒に食べているというお話がぐっと心に響いた。」などの声を聞き、やってよかったと思う。自分たちも情報をしっかりつかみ識別できる力を持つていくことと、食育の大切さが一人でも多くの方に伝わり、山口の子どもたちが皆、元気に大きく育っていくことをめざす。



食育講座



食育講座 試食風景

優秀賞（朝日新聞社賞）

山口の街並を着物で歩こう会

代表者 小川 光（くらしづくり分野／山口市）

活動の動機・目的

日本の伝統衣装でありながら、タンスに眠ったままになりがちな着物をもっと気軽に着ていただきたい。また、譲り受けた着物への懐かしさ、詠えた着物に触れる弾む心、物を大切にすることは、保管するだけでなく、活かして使うことだと実感して頂きたいとの思い。また、観光客の方にも時には着物姿で、山口の風情を楽しんでいただきたく、着物振興に力を入れることで、山口の町活性化の一助になればとの思いで活動。

活動の内容

- ①山口市菜香亭で「着物レンタル・貸付サービス」
市民や観光客に気軽に着物体験をしていただく。2時間未満2500円で提供。
思い出づくりの一助になればとの思いで通年実施。
 - ・着物は、会で買い揃えて現在20着程度、男性用・ゆかたも他に揃える。
 - ・小物も全て用意し、着物選び、着付け、着物（洗える着物）・肌着・足袋等の洗濯、アイロンがけを着付けたメンバーが全て行う。
- ②「アートふる山口」イベント参加・・・着物体験を500円で体験してもらっている。
また、古布を使ったワークショップ実施（簡単にエコを意識した簡単雑貨作り体験）。
 - ・古布・しみになった着物の再利用提案。
 - ・はたきや髪飾り、宝石箱、小物入れなど。
- ③「アートふる山口の街並を着物で歩こう！」の時の様子を写真展示。本人に無料で差し上げる。
- ④「山口お宝展」イベントの一環として着物レンタル・着付けサービス4周年記念企画として「桜咲く山口の街並を着物で歩こう！」を開催。
- ⑤山口祇園祭、ちょうちんまつり他での 着崩れお直し&変わり帯結びサービス等。
- ⑥山口市経済部観光課からの紹介で海外観光客への着物体験。
- ⑦中学・高校へ訪問し浴衣着付け実習。
- ⑧技術向上のための会員研修やHPの充実、「アイデア・おすすめ」コーナー新設等。

これからめざしたいこと

着付けが仕上がった時に皆さんから喜んでもらえることや海外の観光客は韓国・中国の方が多く、一番好評だった所をアンケートで聞いた時、山口での着物体験と言われたことはとてもうれしいこと。今後も、新しい感覚、新しい発想、新しい行動で日本の伝統衣装である着物文化のさらなる発展、また着物を通じ山口の町活性化をはかることをめざしていく。

若い人たちに伝承していきたいという思いが一番で、これからも頑張っていく。



ワークショップ 小物づくり



菜香亭 着物レンタル
着付けの様子

優秀賞（y a b 山口朝日放送賞）

光ピンフレンズ

代表者 三浦 美和子（地域づくり分野／光市）

活動の動機・目的

光勤労者スポーツセンターを利用している関係から、健康でスポーツを出来る身の有難さを感じ、なにか少しでも社会に貢献したいという思いで体育館周辺の清掃活動等に取り組む。

活動の内容

卓球クラブ会員85名の内、70%がボランティア活動に参加。

- ①卓球の練習を週4回実施（ベテラン組が初心者を指導）。
- ②体育館内の大掃除と体育器具（卓球台やフェンス等）の修理。
- ③虹が浜の松の苗植え、海開き前のクリーン作戦参加（年1回）。
- ④平成16年から学校ボランティアに登録、浅江小、島田小から依頼を受け活動。

主に、浅江小学校の特別支援学級の子どもたちと交流。

- ・夏、秋野菜の苗植え、収穫や収穫した野菜で料理。
- ・体験学習（七輪での火おこし、昔遊び、ニジガハマキクのさし芽植え付け、高齢者疑似体験）サポート等、学習内容に応じて手伝い人数を確保していく。
- ・学校内の補修作業（タイル張り替え、放送室パネル補修など）。
- ・運動会前に剪定・除草作業を30名位で実施。

- ⑤光駅駐車場付近の剪定・除草作業と花壇づくり。

以前荒地だった場をきれいにし、花壇を作り、花植えや水やりの管理。

- ⑥社会福祉協議会関連活動

- ・ひかり苑盆踊り、フェスタ（各種バザーサポート）
- ・光市障害者体育祭（タイ焼き作り）
- ・託児ボランティア、東日本大震災物資搬送手伝い等 ・お花見の会
- ・ふれあい健康フェスティバル（広報車の運転・バザー手伝い・バス運転）

- ⑦他ボランティア団体へのお手伝い。

光人形劇フェスティバル手伝い、光紙芝居ビデオ撮り等。

これからめざしたいこと

支援学級の子どもたちとのふれあいや、花壇づくりも少しでもお役に立てていることがうれしい。メンバーはあらゆる方面でのベテラン揃いであることを活かし、皆芸達者でもあることから、老人ホームや施設にも慰問に伺いたいと思っている。

定年後の方たちが卓球クラブに入っこれらるので、人数は増えているし、活動にも協力的なので、会員の特性を生かし、社会に貢献していきたい。



光駅駐車場付近花壇づくり



浅江小学校でさつまいも料理作り

優秀賞（山口新聞社賞）

ビューティー・ケア山口

代表者 伊藤 良子（福祉分野／山口市）

活動の動機・目的

代表者が、化粧品店を開業していた時、地域に何か自分ができることでお返ししたいと思ったことがきっかけ。地域福祉向上の一端としての「お化粧品ボランティア」の充実と、若い世代に呼びかけて技術の習得、また、知識を高め、メンバー間の交流による講座・研修活動を目的とし、18年間活動している。

活動の内容

- ①山口県内4ヵ所の施設を訪問し、「化粧」を通して、笑顔で心の安らぎを感じてもらっている。
 - ・派手な化粧ではなく、自然の化粧と楽しい会話を心がけている。
 - 1回にお化粧品する人は多い時で30人位。化粧後の写真をデイサービスのスタッフに撮ってもらい、その写真は誕生日会の時の写真に使っている。
 - ・要望があれば、化粧終了後も一緒にカラオケをしたり、詩吟をしたり、レクリエーションも楽しんでいる（共済苑デイサービスの場合）。
 - ・施設によっては、認知症の方や寝たきりの方もおられるが、同じように会話しながらお化粧をさせてもらっている。
- ②定例会では、代表者が講師となり、メイクの仕方やハンドマッサージの勉強、施設でのお年寄りのお喋り・応対の仕方を皆で確認している。
- ③山口県立大学（社会福祉学科）の学生からの依頼で、ボランティアセンターで化粧の仕方を教えたり、体験談をお話している。一緒に、化粧・介護等の技術講座を勉強し、お互いが新しい文化・知識を習得している。
- ④お化粧品代がかかるため、メンバーが交代で廃品回収をし、その収益金を充てている。お年寄りとおふれ、お話をしながら、口紅一つで顔の表情が変わっていく様子を見させていただき、「化粧」をしてあげるのではなく、させていただくという気持ちをもって活動。また、抗がん剤治療をされている方に、かつらの貸出しをしている。
- ⑤社協主催のボランティア研修会に参加。広島の方たちと意見交換。

これからめざしたいこと

化粧後の皆さんの声（しっとりしてきもちいい。日頃は、ほお紅なんてつけないから顔色が明るくなりうれしい等）や、お互いに褒め合っているのを見ると自分たちも嬉しくなる。

今後は、高齢者が気軽に集まれるサロンのような“癒しの場所”づくりに向け、奔走中。



デイサービスでのお化粧品ボランティア



ハンドマッサージ

コープやまぐち奨励賞

下関市認知症を支える会「キャッチボールの会」

代表者 高玉 多美子（福祉分野／下関市）

活動の動機・目的

在宅介護はとても大変であり、介護保険など公的サービスだけでは支えられない。同じ悩みを持つもの同士が励ましあう「互助」や、自ら律する「自助」が必要であることから、家族会を設立。会員同士が交流と親睦を深めながら、意見や情報交換をする場作りと認知症の正しい理解をするための啓発活動を行うことで、認知症になっても安心して暮らせる社会の実現をめざす。

活動の内容

①つどいの開催

介護の辛さや不安などを話し合い、聴きあい、自分だけではないことを知り、共に励ましあい頑張れる環境づくりとする。今現在、個々で大変なことや困った事などを出し合い、共感したり、デイサービスの内容や職員の対応等の情報交換、主治医の大切さ、行政への書類申請の仕方など経験者だから言えるアドバイスをお互いにし合う。

②介護施設の訪問

年数回バスで、数箇所を訪問し、将来に備える。時には個別で単一家族と共に、施設や事業所に行き、具体的な相談をする。

③電話相談・・・会員同士で連絡しあい、お互い相談し合う。

④研修会

不定期だが、認知症患者とのコミュニケーションの取り方などを実施、講演会は年2回開催。来年3月に「※認知症を地域で支える下関ネットワーク委員会」で若年性認知症を抱えるご夫婦をお迎えして講演会を300名目標に開催予定。体験談をキャッチボールの会他2団体が発表。⑤認知症サポーター養成講座を要請を受け、キャラバンメイト7名のメンバーが実施。

⑥介護者同士の施設めぐり

⑦外出時のトイレ介助にあたって『介護中』マーク設置を要請し、下関市役所で実現。

⑧今年も国際アルツハイマーデーを前に、9月に下関駅で、認知症への理解を呼びかけるチラシ約400枚を配布した。

⑨11月には、街頭で赤い羽根共同募金に参加。

これからめざしたいこと

- 介護マークを広く普及させていく。また、社会の認知が進まない中、「認知症サポーター100万人キャラバン」による住民・職域・学校講座を受講した方に渡される「認知症サポーターの証」“オレンジリング”の輪を広げていきたい。
- 「地域で見守りサポート」をめざす。徘徊されたり、迷子になられたりすることも多く、どこにどういふ方がおられるか、把握することが大切。家族だけでなく、地域の人みんなで支え合うことが必要と思っているので、社協や自治会、老人会などにも呼び掛けていく。



介護講習会へ認知症予防体操



世界アルツハイマーデーにチラシ配り

コープやまぐち奨励賞

さてと会

代表者 藤田 雅代（福祉分野／宇部市）

活動の動機・目的

子どもたちが支援学校の高等部を卒業後、それぞれ施設を利用している中、その通所施設の休みのときに何かみんなで楽しめることはないかと思い、始めた。しっかり仕事をこなしている子どもたちが仕事を離れてゆっくり楽しい時間を共有し、親たちもそれぞれの施設等の情報交換の場としていく。

活動の内容

知的障がい者とその親の会。家族ぐるみで休日を楽しそうと発足したが、「さてと、何をしよう」というのが名前の由来。

①毎月地域コミュニティスペース「ふぁみらんど」に集まり、折り紙や陶芸、貼り絵などを制作。外にでかけて、花見や海水浴、芋掘りなども行っている。

②平成22年に、「子どもたちの励みになれば」とこれまでに手掛けた作品を発表することを思いつき、宇部市内の4団体（男性コーラスグループ・フォーオーシンガーズ、女性コーラスグループ・野いちごの会、ピアノと歌・野ばらの会、さてと会）で初の交流イベント「わくわくコンサート」を開催。

音楽や童謡詩人・金子みすゞの詩を愛する仲間たちが初めて企画。さてと会はテーマソング「さてとのうた」（お父さんが作詞作曲）で始まり、詩の朗読、手話を交えた歌を披露。同時に会の活動を紹介した写真と陶器、アクセサリ、クリスマスリースなど、子どもたちが作った約70点を展示。

③「ピンクリボンイベント in 大寧寺」で手話を披露。

障がい者も乳がんの検診を受けてもらえればという思いで出演させていただいた。ステージで一生懸命手話と歌を披露することができた。

④3年前から年に1度、歌のつどい“しおさい”に参加。

これからめざしたいこと

子どもたちは、普通の若者のように自分で街中に出て遊ぶことが難しい現状で、こういう場を今後も作っていく。また、発表会を開催して、支援学校を卒業しても、元気に楽しく活動できるということを、他の障がい者の方や同じような団体にも元気を与えられるよう、アピールしていきたいと思う。

スタッフも皆、朗らかで気の合う仲間同士なので、子どもたちの笑顔を活力に今後も楽しく活動していく。



定例会で 芋ほり



わくわくコンサートの中から～手話

コープやまぐち奨励賞・学生の部

梅光学院大学東北ボランティア実行委員会

代表者 竹下 葵（地域づくり分野／梅光学院大学）

活動の動機・目的

この度の東日本大震災が起きたことで、すぐに学内で複数回募金活動を行った。学内では月に1回途上国の子どもたちへの教育支援の為に募金活動を20年以上続けているため、緊急支援が必要なことがあれば、その都度募金活動やボランティア活動等を行う土壌が備わっている。加えて、5月に現地にボランティア活動に行った教員からその様子や活動内容を聞き、自分たちも行つて、実際に活動をしたいと、「ボランティア実行委員会」を立ち上げた。

活動の内容

立ち上げ前には

①募金活動を複数回実施。チャリティーコンサート及び梅光オリジナルTシャツの作成・販売の売上金もボランティアの支援金に。

②学生に募集告知と、その後ボランティア参加者対象に説明会を実施。

東北ボランティア実行委員会立ち上げ後は

①それぞれの部署の責任者を決め、責任者会議を開き、スケジュール、実施方法（宿泊施設、移動手段、費用）、ボランティア活動内容等を検討。

②移動手段検討。貸切バスでの移動が一番経済的だったが、24時間かけていく為、バス会社と自分たちの意を汲んでくれるボランティア精神のあるドライバーの確保。

③宿泊施設の確保（キリスト教のNGO団体からの提供）とボランティアの登録。

④勉強会を実施。「国際交流セミナー主催の東北ボランティア報告」に参加し経験者の話を伺った。

⑤予防接種（破傷風）実施。がれきがまだあり、土砂のかき出しや掃除を行うため。

⑥オープンキャンパスで壇上に出て、東北ボランティアのPR実施。

⑦事前ボランティア実施。参加学生たちが全学部に及ぶため、現地でスムーズに活動ができるように、知り合う為の事前ボランティア（大学周辺の清掃活動）を実施。

⑧下関市長に表敬訪問。エールをいただく。

⑨東北ボランティア活動実施。

学生26名、卒業生1名、教職員4名で東北に出発。活動内容は家の泥出し、片づけ、掃除や幼稚園へ物資（お菓子）の搬入・保育等（9月5日～10日/気仙沼市、大槌町、陸前高田市）。

⑩報告会開催（14回）。

カモンFM出演（報告）、オープンキャンパス（高校生対象）、折尾クリスチャンチャーチ、梅光学院大学ルーキス祭（大学祭）、梅光学院大学（学生対象）、ロータリークラブ（下関）等。

これからめざしたいこと

被災地の現状を知ることだけではなく、被災者の方々の現状も交流を通して直接知ることができた。被災地の方々を思う気持ちを持続することが大切だと思った。9月に現地で活動を行った際に築いた「絆」を今後も維持し、長い期間支援をすると共に、様々な場所で報告会を行い今後の支援の輪を広げていく。



コープやまぐち組合員賞

こちゃママ

代表者 弘重 裕子（福祉分野／柳井市）

活動の動機・目的

歌うことが大好きなメンバーのコーラスグループとして発足。音楽を通して、地域の人々と共に喜びを分かち合い、心潤い、心の通い合う活動をめざす。

活動の内容

「コチャママ」はスペイン語で「水の女神」という意味。ごちゃまぜの「こちゃママ」とも言っている。コーラスを中心に、バイオリンとピアノ、おはなし、手遊びを入れて老人や子どもを対象に施設等を訪問している。

①柳井病院に、昨年の3つの病棟（重症心身病棟・長期入院病棟に車椅子でも移動できない人の病室を含めて）を月に2回訪問していたが、今年から4つの病棟を2回に分けてコンサートを実施。

②上関温泉デイサービス、ゆうわ苑デイサービス・グループホーム等、その他の施設を年に1回から2回訪問。演奏・おはなし・手遊びを通して交流。初めての施設も増え、活動の場が広がった。

高齢の方たちとのコミュニケーションを大事にしているので、皆さんの顔を見ながら歌うことを心がけている。一緒にコミュニケーションがとれる何かを必ず取り入れて、誰もが知っている歌をメインに選曲している。

③他にも幼稚園・保育園でも子どもたちと交流。

④「東日本大震災復興支援コンサート」を11月に『アクティブやない』で開催。

なにかしたいと思っている音楽を愛する人達が集まり、実行委員会を作り、「今私たちにできること」として、コンサートを開催した。

市内の合唱団や中学校合唱部、吹奏学団など7団体とバリトン歌手1名が参加。第3ステージまで展開し、自分たちは第2ステージで柳井少年少女合唱団と一緒に、会場の人達を巻き込み、一緒に楽しく歌った。収益金と義援金を合計約30万円、柳井市を通じて送った。同時に被災地の方々へのメッセージをカードに記入してもらい、お届けした。

これからめざしたいこと

病棟でのコンサートは、寝たきりの方が、口を動かして一緒に歌っておられたり、それを見た、看護師の方も喜ばれる。自分たちは歌うことが幸せな上に、喜んでもらっていることに感動する。

支援コンサートでは他の団体と一緒に企画・連携できたので、そのような合同コンサートも継続していきたいが、病院施設等を回るコンサートも大事にし、一人ひとりの方を大切にしていきたい。



こちゃママコンサート～重症病棟ホールで



こちゃママコンサート～重症病棟病室で

コープやまぐち組合員賞 みんと村

代表者 田中 幸子（地域づくり分野／岩国市）

活動の動機・目的

旧玖珂町の町おこしの為に、町役場が農家などに呼びかけたハーブ栽培研修に参加したことがスタート。同時に地元の文化センターで、特産品の活用とPRを目的に、ハーブを使ったリースやポプリなどの加工品作りの講習会に参加した農家女性の「玖珂ハーブ研究会」が前身となる。販路の開拓や消費者志向の研究も行い、企業組合「みんと村」が設立した。地元にも子どもたちが誇れるような特産品を作りたいとの思いと農業の発展・地域の活性化をめざす。

活動の内容

①ハーブの栽培・加工・販売。

30アールのハーブ農園で無農薬栽培をしている。加工品として、ラベンダーケーキ、キャロミントケーキ、ハーブクッキー、オレンジクッキーを開発し作っている。他にハーブティー、ハーブ茶、ハーブソルト、ピクルスセットも。

直営店「みんと村」他、県内外のスーパーの産直コーナーやお土産店、ネットなどでも販売。

※ミント入りあんぱんは、一番のヒット商品。ミントの量によって味が微妙に変わってくるので、何度も試作・試食を繰り返して完成。他の商品も同様に開発している。原料は県内小麦粉・卵・野菜等100%県内産使用をめざしている。

②ハーブの出前教室を開催。

岩国市総合支所内などや介護施設や病院内、みんと村でハーブ教室開催。

③年1回小学生の職場体験を受け入れている。

寒い時期のハーブの手入れの大変さとやりがいを感じてもらいたいとの思い。

④収穫はお手伝いを担い手さんをお願いすることもある。加工は社協に頼んで「ささみ園」（多機能型事業所・就労継続B支援事業・生活介護事業）に持ち込んでハーブせっけんづくりをお願いしたり、包装袋作りを依頼している。

これからめざしたいこと

店は加工品を販売するだけでなく、消費者交流を通じてハーブのことをより知ってもらうための情報発信の場でもあるので、これからも地域と連携しながらハーブの普及をしていきたいし、自分たちも楽しみながら活動を続け、ハーブを通じて町を元気にしていく。

地産地消をこれからもこだわりとし、地域に根ざした商品作りをして、全国へ発信していきたい。



カモマイル祭り



ラベンダーステッキ作り体験

コープやまぐち組合員賞

おはなしの会「ブーフーウー」

代表者 吉永 美也子（地域づくり分野／宇部市）

活動の動機・目的

子どもたちに心を揺さぶる本を読んであげ、読書の喜びを伝えたいとの思いや、社会の風潮がずさんで、思いやり・優しさ等が乏しいこと、親から子への語り伝えが少ないことから、グループを発足させた。日本の民話を中心に、本を読み聞かせ、様々なお話に接していく中で、豊かな想像力に満ち、人間の優しい心、美しい言葉にふれ、情緒豊かな子どもに育ってほしいし、大人も読書を通して、もっと子どもたちと共に楽しみ、喜んでほしいとの思いで16年間活動している。

活動の内容

①お話の会を代表者宅で、幼児・児童とその保護者を対象に2カ月に1回開催。

内容は

- ・人形劇「三匹の子ぶた」
- ・読み聞かせ（民話、昔話、絵本、自然・科学の季節にあった題材）、腹話術けんちゃん
- ・紙芝居、パネルシアター：民話、昔話
- ・季節の歌、手遊び、季節にあった折り紙、工作（例かぶと）等
- ・頭の体操：クイズ
- ・手品
- ・さようなら：さようなら三角を歌って終了

②例会以外にも、コープの子育てネット交流会やデイサービス、幼稚園にも出向く。

③図書館祭りには人形劇「春秋」で参加。

④宇部総合支援学校小学部に出向き上演等。

※人形劇では、材料を持ち寄り、工夫しながら人形を作り、舞台も制作。研修日だけでなく、機会を見て講演会に参加したり、他の会の活動の様子を見て参考にしている。シルバー会員が多いが、研修を重ねる中で互いの意欲を高めあい、次の活動への活力をもらい、充実した毎日を送っている。

これからめざしたいこと

子どもたちが喜んでくれることが一番嬉しいこと。道で出会ってもニコリと笑ってくれるので、自分たちも元気がもらえる。教員を定年退職された方が新たに加わったり、若いお母さんのメンバーも歌が上手なので、雰囲気もずいぶん変わってきた。皆仲がいいことが自慢。

内容も少しずつ増え、今は宇部にある「霜降り山」にちなんだ昔話、『城山の力くらべ』の紙芝居を作成中。活動内容も知られて、活動範囲が広まってきたが、これからもさらに市内の幼稚園、小学校にお知らせチラシを配るなどして、広報に力を入れていきたい。



ブーフーウー 定例読み聞かせ会



保育支援 ゲーム中～コープ宇部店組合員集会室